

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

三芳町は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

貧困や不平等・格差、気候変動などの問題を解決することをめざすため、2030年までの持続可能な17項目の開発目標 (SDGs) を国連で決めました。誰一人として置き去りにしない、未来を担う子どもたちへ——。私たちができることを考えてみませんか。



## 誰でもできる SDGs アクション・ガイド

レベル 1

### ソファに寝たままできること

電気を節約。電気機器を電源タップに差し込んで、使ってない時は完全に電源を切る。もちろん、パソコンも。請求書が来たら、銀行窓口でなく、オンラインかモバイルで支払う。紙を使わなければ、森林破壊抑制に繋がります。

レベル 2

### 家にいてもできること

紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルすれば、埋立地を増やす必要がなくなります。生鮮品や残り物、食べ切れない時は早めに冷凍し無駄を防ぎます。窓やドアの隙間をふさいでエネルギー効率を高めることができます。

レベル 3

### 家の外ですること

買い物にはいつもマイバッグを持ち歩いて、レジ袋を無駄に使わない工夫を。買い物は地元で。地域の企業や農家を支援すれば、雇用が守られるし、長距離トラックの運転も必要なくなり、環境に配慮した、住みよい町に繋がります。

レベル 4

### 職場ですること

通勤は自転車、徒歩や公共交通機関。マイカーは人数が集まった時だけにするなど意識。職場で差別があったら、どんなものであれ声を上げる。性別や人種、性的指向、社会的背景、身体的能力に関係なく、人はみんな平等です。

出典：国連広報センター アクションガイド

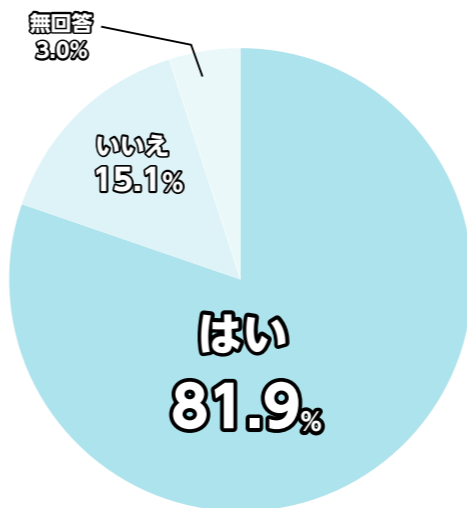
## 収益の一部を三芳町の緑保全へ

10月22日にコピスみよしでソロイベントを行った三芳町広報大使の Juice=Juice リーダー金澤朋子さん。販売されたグッズや三芳町で撮影されたフォトブックの収益の一部を三芳町緑化推進費寄附金に。大使として町の緑地公園のトラスト保全、里山保全に無償で尽力しています。

三芳町広報大使 Juice=Juice リーダー **金澤 朋子**さん



## 三芳町に住み続けたいですか？



回答者数 1,104人

## 20代の定住意向が急上昇

平成31年3月に発表された住民意識調査の結果、「住み続けたい」が8割を超え、年代別では、前回調査で54.3%と他の年代に比べ極端に少なかった20代の定住意向が今回調査では71.2%と大きく上昇しました。

## 自然が豊かな町がスキッ！

### 三芳町の誇りや宝は？

- 1位 自然・緑 (21.0%)
- 2位 みよしまつり (20.5%)
- 3位 川越の松並木など (16.9%)
- 4位 ケヤキ並木 (13.0%)
- 5位 雑木林・平地林 (11.7%)

前述の住民意識調査 (回答者数 1,104人) で「三芳町の誇りや宝」の上位5つは上記の結果に。なぜ自然・緑が守り続けられているのか。特集で紐解きます。

過去があるから今がある。今があるから未来がある。



最初は小さな苗でも成長すれば大きな花や野菜に変わるように、一人ひとりの思いや力が育てば、地球を救う大きな力にもなるかもしれません。今月の特集はSDGs。三芳のあるべき未来の姿に迫ります。



ひとり取り残さない——。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs (Sustainable Development Goals)」の理念です。「貧困をなくそう」など17のゴールを掲げ2030年までに持続可能な未来を達成することをめざし、三芳町も、これからまちづくりをSDGsを取り入れ2030年の町のあるべき未来を考えることになりました。



町では子どもたちがずっと故郷を誇りに思うため緑に囲まれた緑地公園で子育て事業も実施。

その背景には三芳町の歴史を含めたヒト・コト・モノを愛する想いと誇りがあるのかもしれない。その背景には三芳町の歴史を含めたヒト・コト・モノを愛する想いと誇りがあるのかもしれない。その背景には三芳町の歴史を含めたヒト・コト・モノを愛する想いと誇りがあるのかもしれない。

里山保全に取り組む